



TITLE:

MEP療法
(Methotrexate,Etoposide,Cisplatin)
にて一時的寛解のえられた前立腺
平滑筋肉腫の1例

AUTHOR(S):

宋, 成浩; 内田, 豊昭; 向井, 伸哉; 六角, 周; 小柴, 健

CITATION:

宋, 成浩 ...[et al]. MEP療法(Methotrexate,Etoposide,Cisplatin)にて一時的寛解のえられた前立腺平滑筋肉腫の1例. 泌尿器科紀要 1994, 40(1): 83-85

ISSUE DATE:

1994-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/115171>

RIGHT:

MEP 療法 (Methotrexate, Etoposide, Cisplatin) にて 一時的寛解のえられた, 前立腺平滑筋肉腫の 1 例

北里大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 小柴 健教授)

宋 成浩, 内田 豊昭, 向井 伸哉

六角 周, 小柴 健

LEIOMYOSARCOMA OF THE PROSTATE: RESPONSE TO TREATMENT WITH CISPLATIN, ETOPOSIDE AND METHOTREXATE CHEMOTHERAPY: A CASE REPORT

Shigehiro Soh, Toyooki Uchida, Nobuya Mukai,

Syuu Rokkaku and Ken Koshiba

From the Department of Urology, Kitasato University School of Medicine

Leiomyosarcoma of the prostate gland is rare, and only 44 of these neoplasms have been reported in Japan. We experienced a case in a 17-year-old man suffering from leiomyosarcoma and lung metastasis. The patient was treated with chemotherapy consisting of cis-platin, etoposide and methotrexate. He improved considerably and was discharged after five months. However the disease recurred in the pelvis and the lungs. The patient was unresponsive to further chemotherapy and died six months later.

(Acta Urol. Jpn. 40: 83-85, 1994)

Key words: Leiomyosarcoma, Prostate, MEP chemotherapy

緒 言

前立腺平滑筋肉腫は, 非常に稀な疾患である。その発見時には, すでに遠隔転移を認めることが多い。現在まで有効な治療法は見出されておらず, その予後は不良である。今回われわれは, 多剤併用化学療法が有効であった, 前立腺平滑筋肉腫の 1 例を経験したので報告する。

症 例

症例: 17歳, 男性

主訴: 血尿, 排尿困難

家族歴・既往歴: 特記すべきことなし

現病歴: 平成 3 年 2 月肉眼的血尿を認めたが放置していた。平成 3 年 4 月 1 日交通外傷により脾破裂, 血気胸, 骨盤骨折を受傷し, 当院救命救急センター受診し入院となる。4 月 26 日より排尿困難出現。5 月 18 日症状軽快しないため, 当科受診となった。

入院時現症: 身長 167.5 cm, 体重 48.2 kg。触診上,

胸腹部に異常所見は認めなかった。直腸内指診で, 前立腺に表面平滑で弾性軟の, 超鶏卵大の腫瘍を触知した。導尿にて約 400 ml の尿を認めたため, 16Fr バルーンカテーテルを挿入のうえ, 同日当科転科となった。

入院時検査所見・尿所見上は, 赤血球多数であった。血液検査所見は, LDH 475 IU/l と高値を示す以外異常は認めなかった。腫瘍マーカーも, PSA を含めすべて正常範囲内であった。

X線所見: 胸部X線所見では, 5~10 mm 大の多発性の coin lesion が, 両肺野に多数認められた。尿道膀胱部造影では, 前立腺尿道の圧排延長所見を認めた。経静脈性腎盂造影では, 上部尿路に異常は認められなかった。骨盤部 CT では, 前立腺部より膀胱底部にかけて, 8 cm × 8 cm × 9 cm 大の不均一な腫瘍が認められた (Fig. 1A)。骨盤部 MRI にても同様な所見であった。

病理組織学的所見: 平成 3 年 5 月 19 日経直腸的針生検による病理組織学的検索では, 前立腺筋繊維内に紡

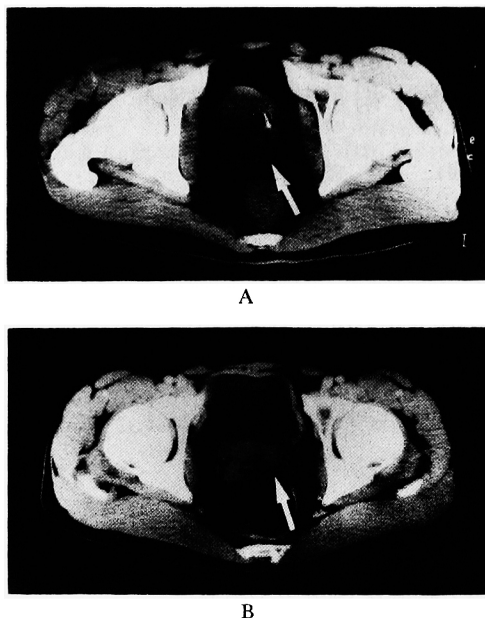


Fig. 1. A, CT scan of pelvis demonstrates large solid mass in prostate. B, repeat CT scan of pelvis after 2 courses of chemotherapy. Mass has become markedly reduced and heterogeneous.

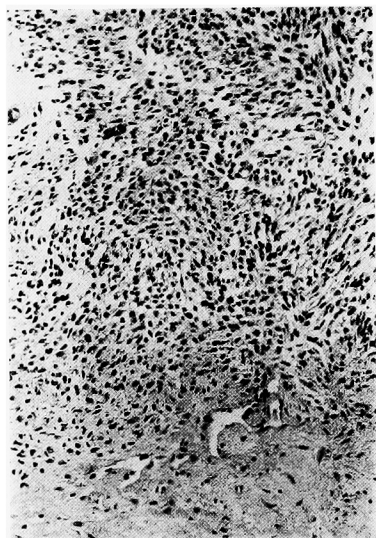


Fig. 2. Spindle-shaped cells and hyperchromatic nuclei proliferate in an interlacing pattern.

錐形細胞が、層状に増殖し、核は Hyperchromatic で分裂像も散見した (Fig. 2)。これらの所見より spindle cell sarcoma と診断された。

入院後経過：入院時の胸高X線検査にて両肺に多発

性の肺転移巣を認めたため、6月9日より Methotrexate (MTX), etoposide, cisplatin (CDDP) を用いた MEP 療法を3回施行した。Regimen は、1日目に MTX 150 mg。2日目から6日目までの5日間 etoposide 120 mg と、CDDP 30 mg を投与した。化学療法施行後の画像診断では、肺転移巣の著明な縮小と、原発巣の縮小および、広範な内部壊死所見を認めた (Fig. 1B)。骨盤内臓器全摘出術を勧めるも、家族の拒否のため断念する。その後全身状態軽快したため退院し、外来にて経過観察していたが、平成3年11月、再度、排尿困難と肺転移巣が出現してきたため、再入院となった。MEP 療法施行するも、肺転移巣の改善認めず、12月6日左内腸骨動脈塞栓術施行および右内腸骨動脈に動注カテーテルを留置し、etoposide の動注と全身投与を行った。原発巣の若干の縮小を認め、排尿困難改善し一時退院となった。平成4年4月胸水貯留を認め、再入院となる。急激な転移巣の拡大、全身状態の悪化により、平成4年5月19日永眠した。

病理解剖学的所見：前立腺には精囊腺や膀胱三角部粘膜にもおよぶ、 $8 \times 7 \times 8$ cm 大の出血、壊死の強い充実性の腫瘍が認められた。膀胱は腫瘍より上方に圧迫され、尿道は肉眼的には不明瞭であった。組織学的には、前立腺筋層より間質にかけて、大小不同のある紡錘形細胞が索状に交錯して、不規則に浸潤増殖していた。免疫染色では desmin 染色陽性、vimentin 染色 S100 染色、myoglobin 染色、NF 染色陰性であり、平滑筋肉腫と考えられた (Fig. 5)。転移は両肺、左胸腔、副腎、膀胱壁、直腸壁、骨盤内リンパ節に認められた。

考 察

前立腺肉腫は稀な疾患であり Myron ら¹⁾ によれば前立腺悪性腫瘍の0.17~0.26%に認める。われわれの調べたところでは、自験例も含め45例におよぶ前立腺平滑筋肉腫が報告されている。若年者の発症が比較的多く、半数近くを占める。主訴は排尿困難が多く、発見時にはすでに遠隔転移を認めることが多い Ha-sui ら²⁾ により、5年生存例も報告されているが、一般にその予後は不良で、奥野ら³⁾ の報告によると、転移なく生存しているのは33例中5例のみである。すでに遠隔転移を有する症例には放射線療法、化学療法が施行されてきたが、十分な効果がえられていないのが現状である。前立腺肉腫に対する化学療法は確立した regimen はなく、現在まで Pratt ら⁴⁾ がその有効性を報告した VAC 療法や、CYVADIC 療法などが

施行されてきたが, 思うような効果がえられていない. しかし, 最近 CDDP を中心とした多剤併用化学療法の有効性が報告されている⁶⁶⁾.

Thomas らは⁷⁾ 手術療法と, CDDP, doxorubicin により良好な治療成果をあげているが, 進行性のものはあまり含まれていない. 今回自験例では併用薬剤を, CDDP, etoposide, MTX の3剤を使用した(以下 MEP 療法). MEP 療法は, 小松原ら⁸⁾により進行性尿路上皮癌に使用され, 有効性が報告されている. われわれの施設でも, 進行性の尿路上皮癌および前立腺癌に使用され, 効果をえていたことから, 本症に対しても MEP 療法を試みたところ初回2コースの投与で, 原発巣および肺転移巣の明らかな縮小, 消退を認めた. 遠隔転移を有する前立腺肉腫に対して, 有効な化学療法 regimen が確立していない現在, MEP 療法は遠隔転移を有する症例に対し, 試みる価値のある regimen と思われる.

結 語

今回われわれは, 初診時遠隔転移を認めた前立腺平滑筋肉腫の1例に対し, CDDP, etoposide, MTX の3剤による多剤併用化学療法を行い, 一時的寛解を認めたので報告した.

文 献

- 1) Myron T: Sarcomas of the prostate gland. *Urology* 5: 810-814, 1975
- 2) Hasui Y, Osada Y and Sumiyoshi A: Leiomyosarcoma of the prostate: A autopsy case, *Nishnihon. J Urol* 52: 313-315, 1990
- 3) 奥野 博, 西尾恭規, 橋村孝幸, ほか: 前立腺平滑筋肉腫の1例. *泌尿紀要* 33: 117-124, 1987
- 4) Pratt CB, Hvstu HO, Fleming ID, et al.: Coordinated treatment of childhood rhabdomyosarcoma with surgery, radiotherapy and combination chemotherapy. *Cancer Res* 32: 606-610, 1972
- 5) 楠美康夫, 菅原 茂, 工藤達也, ほか: 前立腺横紋筋肉腫の1例. *泌尿紀要* 27: 1231-1236, 1981
- 6) 神波照夫, 石田 章, 新井 豊, ほか: 小児膀胱横紋筋肉腫の1例. *泌尿紀要* 30: 387-395, 1984
- 7) Thomas EA, Philip W and Donald GS: Management of adult sarcomas of the bladder and prostate. *J Urol* 140: 1397-1399, 1988
- 8) 小松原秀一, 渡辺 学, 北村康男, ほか: 進行性尿路上皮癌に対する化学療法の治療成績. *泌尿紀要* 34: 1697-1702, 1988

(Received on May 13, 1993)

(Accepted on August 23, 1993)